

すべての学生のQuality of College Lifeが向上し、
ヘルシーキャンパスを構築することで、社会全体の健康増進を目指す

保健管理センター

大学運営



【活動概要】

保健管理センターでは、すべての学生が、心身共に健康で、穏やかに、充実したQuality of College Life (QOCL) を過ごせるよう、専門のスタッフ（医師、保健師、看護師、カウンセラー）が勤務し活動しています。

- 相談・カウンセリング・診察： 心身の不調、不安・悩みに応じています。HPのお問い合わせフォームから申し込みができます。希望者にはリモートカウンセリングを行っています。
- 健康診断： 学生健康診断を実施しています。問診票や結果に基づき、個別にアドバイスを行っています。
- 健康指導等： 身長体重計・体組成計、血圧計等を自由に使用でき、皆さんの日々の健康管理に活用できます。測定結果や、アルコールパッチテスト・骨量測定等に基づき、フードモデル等を用いて、生活習慣の助言・指導を行っています。
- グループワーク： ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルの獲得を目標として、グループワークを実施しています。

いずれも、個々の状況に適した専門スタッフが対応しています。必要に応じ、学内関連部署や学外の医療・保健福祉機関と連携しています。

その他にも、感染予防対策や、心身の健康に関する啓発活動を行っています。

これらの様々な活動を通して、すべての学生のQOCLが向上し、ヘルシーキャンパスを構築することで、社会全体の健康増進へと繋がることを目指しています。

相談・カウンセリング・診察



カウンセリングルーム
カウンセラー・医師等専門のスタッフが対応しています。

健康指導等



アルコールパッチテスト
保健師・看護師が助言・指導を行っています。



フードモデル

グループワーク



前期・後期に分け、実施しています。
ロールプレイも行っています。

【担当】保健管理センター

県内外の大学・公共図書館との連携で地域の学びを支える

附属図書館

教育 研究 社会貢献



学術情報の提供



中央図書館書架



中央図書館閲覧室

他の図書館との連携



県内外図書館との
資料の貸借、文献複写



学内に移動図書館車

【活動概要】

附属図書館は、本学の学術研究活動全般を支える不可欠な中核として、学術情報を収集、蓄積し、本学の学生、教職員だけでなく、地域の住民、学生、研究者の皆様提供しています。

また、県内の大学図書館および公共図書館と連携して、講演会・セミナー等を実施し、地域の文化に触れる機会や、健康情報等を提供しています。

鳥取県内の知の集積拠点の一つとして、県外の図書館とも文献やレファレンスについて連携することにより、社会全体の財産である学術情報を共有し、学術の発展に寄与して、SDGs 全般的な達成に貢献します。

【担当】図書館情報課

地域参加型・実践型研究教育活動の推進と地域貢献

地域価値創造研究教育機構

大学運営



【活動概要】

○「人口希薄化地域における地域創生を目指した実践型教育研究の新展開」を図るという本学の基本戦略を推進するため、地域参加型研究と地域実践型教育(大学教育と社会教育)の全学的展開に向けて、様々な分野の地域課題の発掘・解決を図る取組を支援・推進しています。

○地域のニーズや関心に即したものを選定し、その内容や成果を一般の方に分かり易く説明する講座(サイエンス・アカデミー)を開催する他、地元企業等のニーズに即したリカレント教育を実施しています。

○学生が、地域への関心を高め、知識や実践的なスキルを身に付けることのできる地域志向型人間力育成プログラムとして、「地域創生推進プログラム」を展開しています。特に、地域から持ち込まれた問題の解決に学生グループが主体的に取り組む課題解決型学習(PBL)をはじめとした地域実践型教育の全学的展開を推進しています。また、地域実践型教育活動や特色ある学生教育を試行する取り組みや地域に出かけ地域と協働する学生による課外活動を支援・推進しています。

○地域創生を担い得る人材に育った学生の地元定着促進にも力をいれており、県内の他の高等教育機関や自治体、経済団体等と連携して、地域が求める人材を育成する教育カリキュラムを開発・実施するとともに、学生のインターンシップ参加や地元企業訪問を促進する等の取組を展開しています。

○地域課題の発掘・解決に資する調査・研究、教育・啓発等に係る事業を、鳥取大学が行政機関等から受託する場合の窓口として、保健・福祉分野などの事業を受託・推進し、地域に貢献しています。

【担当】地域価値創造研究教育機構



サイエンス・アカデミー

鳥取県立図書館で一般の方を対象として講座を開催。



地域創生推進プログラム

「とっとり暮らし早期体験学習」授業では地域に出かけ、課題とその解決への取組みを学び、自らも提案。



学生の地元定着に向けた取組

本学独自の取り組みとして、企業見学シャトル便を活用し、地元企業を訪問。

気候変動の健康影響とその対策に向けた研究

国際乾燥地研究教育機構

研究



【活動概要】

気候変動が人や家畜、社会生活へもたらす影響を評価し、その対策を検討しています。

1. 地球温暖化に伴う熱中症増加とその対策に関する研究
急増する熱中症のリスク要因の分析を行っています。
分析結果を熱中症対策に応用する研究を展開しています。
2. 異常低温など極端気象の人畜への影響に関する影響
モンゴルの寒冷災害の背景にある複合的要因を探究しています。
被害の影響を悪化させる健康状態の解析を行っています。
3. 砂漠化や土地劣化に伴う健康影響の評価
黄砂やPM2.5など越境汚染物質の健康影響を分析しています。
土地劣化の著しいエチオピアでのQOL調査を行っています。



1. 熱中症に関する実験



2. モンゴルでの寒冷災害調査



3. エチオピアでの調査

【担当】大谷眞二（国際乾燥地研究教育機構）

教育 大学運営



【活動概要】

学生支援センターは多様な背景や価値観をもつすべての学生が充実した生活を送ることができるように、学生生活や学生生活への様々な支援をおこなっています。2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、鳥取大学においても修学上の困難を抱えている学生への合理的配慮に基づいた支援をおこなうとともに、学内外の機関との連携を進めています。

学生支援センターの取り組みの1つとして、障がいのある学生の問題解決能力を高める実践的な活動をおこなっています。入学から卒業までの連続した支援体制を構築するために、学生の状況や特性に応じたSSTを提案・実施したり、学内資源を利用した学内インターンシップ、学内アルバイトを実践しています。多様な特性をもつすべての学生が自分の長所に気づき、それを生かすことができ、さらには学生同士がお互いの多様性を尊重することができるコミュニティ作りを目指して活動をしています。

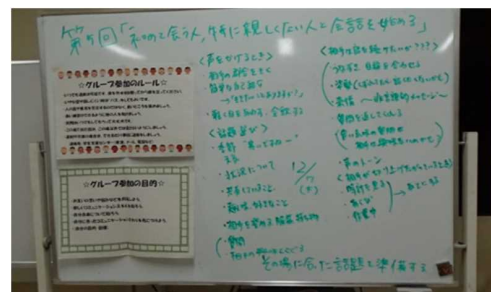
【担当】教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター

SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）とは、社会で人が暮らしていくために必要なスキルを身につけるための練習のことをいいます。特に大学ではコミュニケーションスキルの向上に力をいれています。

〇コミュニケーションプログラムの一例

セッション	内容
1	目的の共有とルール決め、自己紹介
2	ほめる
3	頼み事をする、断る
4	不愉快な気持ちを伝える
5	親しくない人を相手に会話を始める
6	気持ちを話して会話を続ける
7	周りにあわせる（興味のない時や写真を撮るとき）
8	電話をかける時のコツ、まとめ

OSSTでは学生からも意見を出してもらい、話し合いながら進めていきます。

教職を目指す！
「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

教育



【活動概要】

「自らを高めることができる」「国際的な視野を持つ」「授業がおもしろい」「創造的な授業ができる」「他職種と協働できる、そうした教員を養成するためのプロジェクトです。

- 学びの教室：主に学校現場（幼・小・中・高・特支）で働いている教員を大学に招き、授業づくりやクラスづくり、キャリア形成を学びます。
- 学びの座談会：若手の先生と共に、ざっくばらんに学校の様子や教員採用試験のことまで話し合います。
- 遊びの教室：遊びを通しての学びを、遊びながら学びます。近年はプログラミング教育をテーマとしています。その他、ブッククラブの企画もあります。
- つなぐ教室：多様化する子どもたちや社会の課題への対応、学校内外での連携、グローバルな視野など、ひろく教育と社会に関する現代的課題を考えます。

【担当】教育支援・国際交流推進機構教員養成センター、
学生部教育支援課教職教育係教育支援・国際交流推進機構
教員養成センター

学びの教室



学びの教室



遊びの教室



つなぐ教室



タフで実践力のあるグローバル人材の育成を目的とした グローバルゲートウェイプログラムの開発

教育支援・国際交
流推進機構
国際交流センター

教育 大学運営

4 質の高い教育を
みんなに



【活動概要】

鳥取大学では、タフで実践力のあるグローバル人材の育成を目指して、平成24年度からグローバルゲートウェイプログラム（GGP）を実施しています。学生はGGPを通じて、夏休みや春休みの期間に、海外で語学研修や異文化体験、海外の協定校等での研究活動など、様々なプログラムに参加できます（図1）。また、留学効果を高めるため、留学の前後も語学力やコミュニケーション力向上のために、国内で語学強化コースや英語イマージョンプログラムを実施しています（図2）。

海外プログラムでは、語学研修（アメリカ、オーストラリア、カナダ）、多文化共生力（台湾、マレーシア）および海外実践教育プログラム（ウガンダ、メキシコ）を実施しています。コロナ禍においてはオンラインで実施しています。本学では、「教育理念」である「知と実践の融合」の下、長年海外で実践的な教育研究活動を展開してきました。その成果をもとに、海外実践教育プログラムでは、学生の身体的および精神的健康を強化および育成するために、過酷な環境・異なる文化、極端な気候条件のある乾燥地域の発展途上国および新興国で実施されます。さらに、自分のキャリアに特化することに興味がある学生には、インターナショナル・トレーニング・プログラムや交換留学にも参加できます。こうした留学経験を経た学生は、卒業する頃にはグローバル社会を生きていくために必要な能力を備えた学生になることができます。また、鳥取大学では、海外において安全な勉学、生活、滞在ができるよう海外渡航を予定しているすべての学生に対し、海外安全教育の受講を義務付けています。

【担当】 教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター

英語のレベル(目安)	
TOEIC 400点	TOEIC 600点
初級	中級
上級	上級
専門プログラム ・ 海外・専門性・国際社会のグローバル人材育成 ・ 専修の大学として学ぶ ・ 各学部が企画する専門性を高めるためのプログラム	鳥取大学ITP 交換留学
海外実践プログラム ・ 海外のフィールドでの実践教育 ・ 語学をツールとして、グローバル能力・グローバルマインド・国際能力の向上を目指す ・ 鳥取大学オリジナルプログラム	各学部の専門教育で実施する海外プログラム メキシコ海外実践教育プログラム（夏） ウガンダ海外実践教育プログラム（春） マレーシア多文化協働実践プログラム（夏）
多文化協働プログラム ・ 多文化協働力の育成 ・ 鳥取大学・マラヤ大学との共同授業	
語学・異文化理解プログラム ・ 言語能力・異文化理解	台湾英語・異文化研修（春） マレーシアファーストステップ 語学・異文化研修（春）
語学・異文化教育 ・ 語学強化 ・ 海外の大学が提供する語学プログラムに参加 ・ 国内で英語強化コースや英語イマージョンプログラムを実施している学生は、海外での留学や参加後の語学力維持のために	オーストラリア英語研修（春） アメリカ英語研修（春・夏） カナダ英語研修（夏） 国内英語イマージョンプログラム（初級・中級・上級） 語学強化コース（英語・スペイン語・中国語）

図1. 鳥取大学海外プログラム(グローバルゲートウェイプログラム)

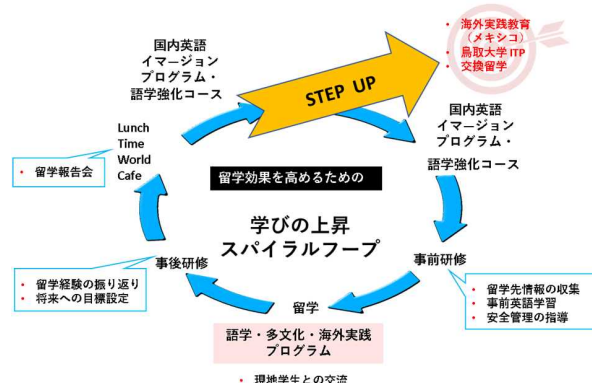


図2. 留学効果を高め、ステップアップするための国内および海外プログラムのスパイラルフープ

留学生を地域の学校等へ派遣し児童・生徒に国際理解の機会を提供する

教育支援・国際交
流推進機構
国際交流センター

教育 社会貢献 課外活動

4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等
をなくそう



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



【活動概要】

鳥取大学教育支援・国際交流推進機構国際交流センターでは、地域の小・中・高等学校等に、外国人留学生や国際交流団体の学生を派遣し、国際理解・異文化交流の機会を提供しています。

【活動例】

- 留学生による（日本語／英語での）自国紹介のプレゼンテーションやクイズ
- 留学生による母語でのあいさつや自己紹介のミニレッスン
- 留学生による母語での絵本の読み聞かせ
- 留学生による自国での子どもの遊び紹介
- 児童・生徒による伝統文化・生活文化紹介
- 児童・生徒による日本の遊び紹介
- 児童・生徒による学習成果発表
- 児童・生徒による学校紹介・案内

【担当】 教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター



高校でのプレゼンテーション



小学校で母語での絵本の読み聞かせ



高校生との日本の遊び体験会

鳥取大学ジュニアドクター育成塾 めざせ！地球を救う環境博士

ジュニアドクター 育成事業

教育



【活動概要】

鳥取大学ジュニアドクター育成塾「めざせ！地球を救う環境博士」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業である「ジュニアドクター育成塾」に採用された特別な教育プログラムのうちの1つです。

現在、地球温暖化による気候変動をはじめとする、人類の活動に起因する深刻な環境破壊が全世界的に進行しており、持続可能な社会の実現のためには、環境問題の解決は避けて通ることができません。環境における諸問題について深い理解を持ち、その解決を目指そうとする意欲をもった人材の育成は急務といえます。

本プログラムでは、「環境」を軸として最新の科学的知見を講義・実験・議論によって学び、これからの社会で必要とされる他者と協同しながら新しい考えや知識を生み出していくことのできる人材の育成を目指しています。令和4年度は、環境探究プログラム（第二段階）のみを実施しています。



【担当】ジュニアドクター育成事業推進室

中学3年生 公民的分野「現代社会の特色と私たち」 ～持続可能な社会に向けて～

附属中学校

教育



など

【活動概要】

附属中学3年生の公民的分野の最初の授業で、公益財団法人日本ユニセフ協会から提供の『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』を活用し、持続可能な社会の実現に向けての自分の考えをまとめる活動をした。

まず、今までの地理的分野や歴史的分野で学習したことを思い出させながら、SDGsの17個の目標のうち、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、順位・理由をつけて3つ選んだ。そして、グループで自分が選んだ目標を理由とともに紹介し、意見交流を行った。そして、級友の意見やグループで話し合った内容などをもとにして、これからの社会を持続可能でよりよいものにするためにどうしたらよいかやこれから解決策を考えたいと思った目標や課題をまとめた。

現在の社会情勢などを想起すると、2030年に目標達成ができるのかと考える生徒もいたが、自分たちが暮らすよりよい社会を創り上げるために、お互いに協力して取り組んでいくことが大事であると感じている生徒が多くいた。



【担当】授業実施者：福田仁（附属中学校）